

新約聖書注解シリーズ

ヨハネの黙示録

J. B. カリー

THE REVELATION

An Exposition

by

James B. Currie

新約聖書注解シリーズ

ヨハネの黙示録

J・B・カリー

一節ごとの詳しい解説

THE REVELATION

An Exposition

This book would never have been published had Mr. Hatsuo MOCHIZUKI not been persistent in the hard work of transcribing the material from recordings taken at the time the ministry was given. I am deeply grateful to our brother for this labour of love.

Also two sisters in the Lord, Mrs. Saori UESUGI and Miss Hisako MORITA spent long hours in checking the book before it went to the printers. They, too, have my sincerest thanks.

It remains to be said that the work of these believers, along with that of some others, has made the book presentable in a way I never could have. May the Lord use their efforts to encourage and help the Lord's people throughout Japan.

J. B. Currie

EVANGELICAL PUBLISHERS
Tokyo, Japan

まえがき

聖書の最後の書、「ヨハネの黙示録」は、多くの信者にとつて、もつとも理解しにくい書巻です。そのため、聖書をよく読む人でも、黙示録には注意を払わないことが多いのです。黙示録があまり学ばれないもう一つの理由は、黙示録の内容をどのように説明すべきかについて、多くの注解者たちの意見が異なっているからかもしれません。昔よく使われた方法の一つに（私の考えでは、その方法はまったく役に立たないものですが）、黙示録に書かれていることの多くを象徴とみなす方法がありました。その結果、それらの象徴が何を意味するかについて、それぞれの注解者が独自の考えを持つようになりました。それらの考えを判断する決定的な基準がないため、実にさまざまな解釈が可能となり、混乱を引き起こしたのです。

神が黙示録をお与えになったのは、未来の出来事に関するご自分のみこころを明らかにさせるためでした。物事を明確にするためであつて、あいまいにするためではありません。ですから、私は、聖書の他の箇所を説明するときと同様、この黙示録を解釈するときも、「用いられているこ

とばを、その文字どおりの意味に取る」という原則にできるかぎり従いたいと思っています。そのことばが明らかに象徴的な意味で用いられている場合は、まず黙示録そのものの中に、次に聖書の他の箇所にも、その意味を説き明かす鍵があると考えるべきでしょう。

黙示録の注解書を出そうという試みが発行にまでこぎ着けたのは、まず、玉穂集会の望月初男兄による熱心な働きと忍耐によるものです。この本は、東京の大京町キリスト集会所で、二年以上かけて学んだ二十四回の学びをテープ起こしたものが基になっています。そのような機会を与えてくださった大京町集会の皆さまに心から感謝いたします。ただ、口頭での学びは、本にするために書かれた学びとはまったく違うものですので、このようなかたちで出版することに、私は気が進みませんでした。本らしい体裁にするために、府中集会の森田寿子姉、植杉砂織姉、および伝道出版社編集部にも、さらに多くの時間を割いていただくことになってしまいました。このような方々のご愛労がなければ、本書が発行されることもなかったでしょう。もちろん、この本に何らかの落ち度があれば、それはすべて著者である私の責任です。

お読みいただければすぐに分かることですが、この学びは学問的なものではありません。聖書原典の「本文批評」や、論争的になるようなことは考慮に入れていません。目的は、最初から、一般の信者が、黙示録というとてもおもしろい書巻を、とにかくざっと理解できるようにというものでした。そのためには、あまり詳しく掘り下げすぎると、かえって興味を失うかもしれませ

ん。本書は、黙示録を学ぶ機会のない方々の手助けをするものであり、少しでもその目的を達成できればと願っています。

本書が出版されたからには、主がご自分の栄光のために本書を用いてくださり、本書を読まれた多くの方々が、堅く信仰に立って、この悪の時代に立ち向かうことができるように、というのが、私の切なる願いと祈りです。聖霊の力により、黙示録をさらに理解することは、そのために大いに役立つことでしょう。

二〇〇三年 九月

東京・府中市にて

ジェームズ B・カリー

目次

まえがき 3

概略 9

- 一章 序文とキリストの幻 31
- 二章 七つの集会への手紙 (1) 54
- 三章 七つの集会への手紙 (2) 81
- 四章 天の御座 103
- 五章 小さな巻物とほふられた小羊 125
- 六章 最初の六つの封印が解かれる 146
- 七章 印を押された十四万四千人の証人たち 169
- 八章 第七の封印——四つのラツパが鳴り響く 189
- 九章 第五のラツパと第六のラツパ 209
- 一〇章 小さな巻物を持った御使い 228

- 一章 ふたりの証人と第七のラツパ 252
 二章 地上に投げ落とされた悪魔とその使いども 273
 三章 海からの獣と地からの獣 295
 四章 十四万四千人の歌…バビロンの崩壊 320
 五章 七つの災害——神の激しい怒り 341
 六章 七つの怒りの鉢 358
 七章 バビロンに関する奥義 376
 八章 バビロンの崩壊を嘆き悲しむ人々 393
 九章 小羊の婚宴とキリストの再臨 409
 二〇章 サタン、千年の間縛られるゝ大きな白い御座 428
 二一章 新しい天、新しい地、新しいエルサレム 447
 二二章 永遠の状態と最後の招き 465

概略

まず、黙示録の一章一節から数節だけを取り上げて、黙示録全体の内容について考えてみます。そして、導かれるまま、この興味深い書卷を一章ずつ取り扱っていきましょう。

私が救われたころ、私の属していた集会の火曜日の集まりで、二年にわたって黙示録が学ばれました。救われたばかりの私は、その二年間、毎回出席して、兄弟たちの学びを熱心に聞きました。今でもその内容をよく覚えています。あのころの兄弟たちの考えと、現在の私の見解とはかなり違っていますが、当時、二年にわたって黙示録をかなり詳しく学んだことが、この概略および、この注解書の土台となっています。

では、一章一節から八節までを取り上げて、黙示録の概略を述べてみましょう。

1-3節 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。(4-8節を省略)

新約聖書の中で、「預言のことば」、あるいは「預言の書」と呼ばれる書卷はただ一つ、この黙示録だけです。旧約のダニエル書と新約の黙示録はどちらも重要な預言書であり、よく調べてみなければなりません。旧約の預言書の中で、ダニエル書が重要な事柄を取り扱っているのは確かです。この書は、終わりの時代に起こることを、前もって詳しく教えています。この書の重要性は、ある人々が、「預言のことば」をはっきり理解するためにはダニエル書の奥義を究める必要がある、と考えていることから明らかです。

けれども、ダニエル書とこの黙示録(イエス・キリストの黙示)には、大きな違いが一つあります。ダニエル書の一二章四節と九節に書かれているように、この書は「封じられた」書物です。